

ナガハグサ

Poa pratensis

イネ科



ナガハグサ

名前の由来

葉が特に長いことから。ケンタッキー・ブルーグラスの名前で牧草として栽培される。漢字名：長葉草

形態的特徴

高さ30～80cmになる。地下に長く這う根茎がある。葉は細長く、長さ7～30cmで幅2～4mm、中央脈の下部に毛がある。葉の先端で急に幅が狭くなり、先端はボートの舳先のようなになる。花は淡緑色、上部で2～6本ずつ数段に輪生状のびた柄の先につき円錐花序になる。

類似種と見分け方：他のイネ科草本。

ナガハグサはイネ科草本の中でも識別困難なグループの一

種である。このグループの大きな特徴は、葉の先がはっきりとボートの舳先のようなになることと、花ひとつ（コメでいったら粗一粒に当たる部分）を穂の中からはずすと、花の根元の部分に縮れた長い毛がついていることである。これらの特徴を持ち、かつ、道端や荒地などで群生しているものは本種である可能性が高い。

生育環境・分布

牧草地で栽培されており、道端や野原、荒地などに広く野生化している。

分布：国外分布は、ユーラシア大陸の温帯。タイプ産地はヨーロッパ。

国内分布は、日本全土。

北海道内分布は、全道。

十勝地方では、牧草地で栽培されているほか、道端や草原、荒地などに広く野生化し、ごく普通に見られる。

生活史

開花時期：6～7月。開花までの年数：不明。寿命：多年草。

他生物との関わり

シロオビヒメヒカゲ幼虫の食草になっている。



ナガハグサの葉。先端で急に狭くなる

興味深い話

■アメリカ・ケンタッキー州を中心とする牧草地で栽培され、明治初年に牧草のケンタッキーブルーグラスとして渡来した。

■成長が早く、地下茎を広く張り巡らせる性質を利用して、砂防用、芝生としても利用される。アメリカでの芝生としての利用は長く、芝生として60年たつものもあるという。

品種も多く数十種類にのぼる。

■移入されたものは日当たりのよい場所に生育するが、山地の薄暗い森の中に生育するものは日本固有の自生種であるともいわれる。

■花粉は花粉症の原因となっている。

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期			■									
結実期			■									

参考文献

「改訂版 牧野新日本植物図鑑 牧野富太郎 北隆館 1989
「日本帰化植物写真図鑑」清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七 全国農村教育協会 2001
「新版 北海道の花(増補版)」鮫島惇一郎・辻井達一・梅沢俊 北海道大学図書刊行会 1993

「増補 日本イネ科植物図譜」長田武正 平凡社 1993
「図説 花と樹の大事典」木村陽二郎・植物文化研究会・雅麗 柏書房 1996
「新訂 芝生と緑化」日本芝草学会編 ソフトサイエンス社 1988

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ